

平取の重要文化的景観について

平取町アイヌ施策推進課 課長 貝澤一成

1. はじめに

平取町は北海道日高地方の西端に位置し、総面積 743.16 km²で東西 52.8 km、南北 41.1 km とやや三角形に似た形です。

大雪山系とともに北海道の“背骨”といわれる日高山脈の最高峰「幌尻岳」から清流「沙流川」が太平洋に向かって流下し、河岸段丘を形成しています。上流域で見られる緑色片岩、いわゆる「アオトラ石」は縄文期に北海道及び東北にまで流通していたことが最近の青森県の三内丸山遺跡の発掘調査からわかっています。夏は涼しく積雪は少なく、北海道では比較的温暖で過ごしやすい気候です。

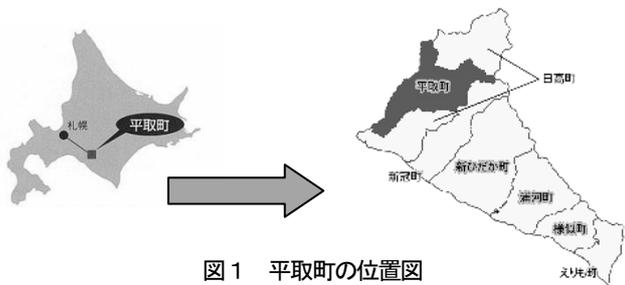


図1 平取町の位置図

沙流川流域は古くからアイヌ民族の生活・生業の場であり、その伝統がさまざまな形で受け継がれて、現在にいたっています。アイヌ出身の民俗学者故萱野茂博士など、多くの研究者・収集家により、アイヌ文化に関する資料・情報が収集され、世界的に有名発信地となっています。「北海道アイヌ古式舞踊」、「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」など多くの文化財があり、平成 25 年には「二風谷イタ」、「二風谷アットゥシ」が伝統的工芸品に選定されました。

主力産業は農業で、関西・関東まで出荷される「びらとりトマト」や、恵まれた自然環境のもとで飼育される「びらとり和牛」は品質が優れ、ブランドとして知られています。

2. 重要文化的景観とは

文化的景観とは、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことができないもの（文化財保護法第二条第1項第五号より）」のことで、その中でも特に重要なものが「重要文化的景観」として選定されています（平成 25 年 4 月現在で 35 件）。

平取町の「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」は、平成 19 年、全国で 3 番目に重要文化的景観に選定されました。文化的景観保存計画を通じて、保存管理、整備活用、運営体制に関する基本方針が定められた約 4500

ヘクタールが選定区域となっています。

表 平取町の重要文化的景観

区域(景観単位)名	所在地・面積
A:ピラウトゥルナイ区域(ベンケ・バンケ) ◇北海道日高地方における里山的景観	平取町字川向、字小平 19,287,600m ²
B:二風谷区域(ニフタニ) ◇アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観	平取町字二風谷 13,022,979m ²
C:芽生区域(メム) ◇峡谷との対照が際立つ戦後開拓地の景観	平取町字芽生 102,494m ²
D:宿主別区域(シュクシベツ) ◇牧野・牧野林とスズラン群生地の景観	平取町字芽生 3,104,855m ²
E:額平川区域(ヌカピラ) ◇自然とアイヌの伝統、開拓の営為が織り成す多文化な河川景観	総主別川河口～額平川・アブシ川合流点付近間の河川 2,207,824m ²
F:沙流川区域(シシリムカ) ◇自然とアイヌの伝統、開拓の営為が織り成す多文化な河川景観	にぶたに湖上流端～新平取大橋間の河川敷地 6,084,550m ²

芽生(メム)地区にある「スズラン群生地」は、平取町の代表的な観光地で日本一の広さを誇りますが、馬を主とした共同放牧地として利用されていた際にスズランは有毒のために馬が食べなかったことから選択的に残り群生地化したもので、地域の人々の生業や風土によって形成された文化的景観の一つとみなすことができます。

3. 平取町の文化的景観

の特徴

平取町の文化的景観は、アイヌ文化の諸要素を現在に至るまでとどめながら、開拓期以降の農林業に伴う土地利用がその上に展開することによって多文化の重層としての様相を示した極めて貴重な景観ということができま

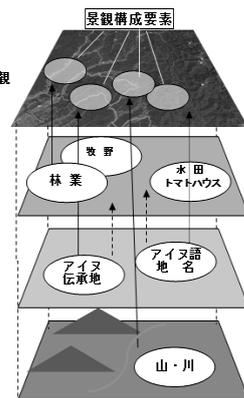


図2 平取の景観のレイヤー構造

す。しかし、社会経済の変化によりその価値は常に消滅の危機にあることから、現在、太古から現在に至る歴史と沙流川を軸とする景観構成要素の再確認と追加選定による景観の保全・活用を進めるべく二次選定に向けた調査を行っています。

4. おわりに

平取町では、平成 22 年に「アイヌ文化振興基本計画」を策定し、町内外の様々な取組みと連携しながら「生業に結びつき、息づくアイヌ文化の継承」を目標に、沙流川流域の自然・文化資源と地場産業を活かした持続的な産業の創造を目指しています。

文化的景観は、地域の歴史文化と特色を活かした地域の財産として持続的な産業創造の基底となるものとなることから、それらを活用した持続的な産業創造を目指していきたいと考えています。